

# みなみまち協だより

第22号 令和3年11月15日

発行所：みなみまちづくり協議会

高山市岡本町1-18 南小学校内

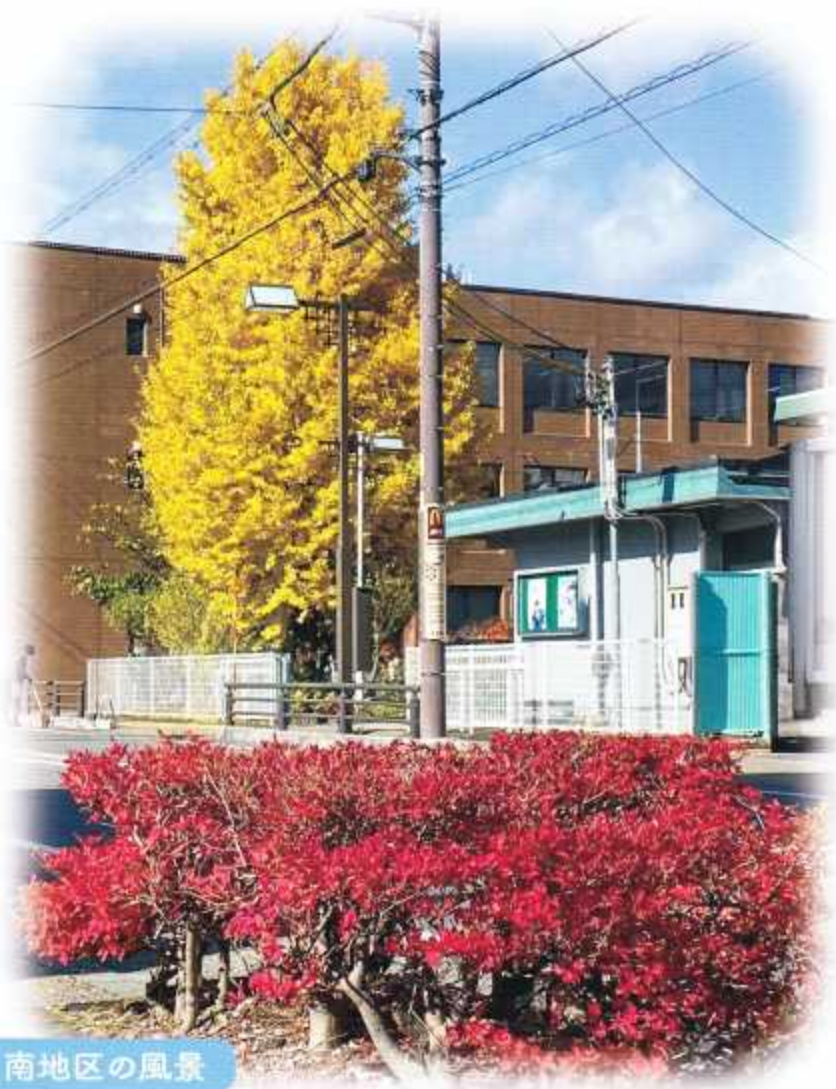
Tel&Fax 34-0114

題字：内木 能里子(八軒町2)

## 日本放送協会高山放送会館

高山郵便局の隣に日本放送協会高山放送会館があります。この中にはNHK高山支局やHits FM(ヒッツエフエム)のスタジオがあります。  
この会館の前庭に大きなイチョウの木があります。

この写真は昨年十一月十日に撮影しました。歩道のドウダンツツジの赤とイチョウの黄色の対比が面白くてつい撮影しました。今年、イチョウの刈込みがされ、迫力がないので昨年の写真を載せました。



南地区の風景

### おいしい 桜

すっかりもんだの末、コロナの中でオリンピックとパラリンピックは行われた。  
無観客が原則だから、

テレビで見るとはなかった。

終わって我々は何を学んだか。

目標に向かって「努力」してきた人の

姿は美しかった。癌を克服して決

勝にまで残ってきた水泳の池江璃花

子さんには皆が感動した。明日に向

て生きる勇気ももらった。

そういう意味ではパラリンピック

の方にも感動の場面が多かった。五

十才で自転車ロードレースで金メダ

ルの二冠王になった杉浦佳子さんは

「最年少記録は二度と作れないが、最

年長記録はできる」と言った。五十

才で金メダル二つ。

視覚障害クラス女子マラソンで金

メダルの道下美里さん。金メダルを

首に掛けてもらったのを外して、横

の伴走者の首に掛けてニコッと笑っ

た。感謝の心だった。「助け合う」心

で共に走る美しい光景だった。

人は誰も一人では生きられない。

だから「いじめ」は絶対ダメ。

パラリンピックの選手達はそれを

教えてくれたのではないか。

(中林 利数)

# 創立5周年記念行事

令和3年10月24日

## 第1部 創立5周年記念式典

開会の辞

市民憲章朗唱

会長挨拶

表彰式

シンボルマーク

マスコットキャラクター

フォトコンテスト

伝達式

閉会の辞



開会の辞



会長挨拶



閉会の辞



表彰式



シンボルマーク

表彰者

シンボルマーク

マスコットキャラクター

フォトコンテスト

岐阜県地域子ども支援賞

釜屋 ひめ乃 さん

倉田 柑菜 さん

4・5ページに掲載

牛丸 英夫 さん



マスコットキャラクター

子どもたちが地域で行う活動を支え、地域の皆様から高い評価を得ている個人及び団体の功績を讃える賞

## ロビ-展

寄せ植え・プリザーブドフラワー  
フォトコンテスト作品



## 第2部 記念コンサート

第1幕 日本舞踊ライブショー

花柳琴臣さん みりんそう

第2幕 フルート・アコーディオンの調べ

吉岡'Ree'りささん 柳原里美さん



花柳琴臣さん



みりんそう



吉岡'Ree'りささん



柳原里美さん



出演者全員によるコラボ



おたのしみ抽選会

コロナ禍の下、100名余の方が入場され、久しぶりに生の舞踊や演奏で楽しい時間を過ごしました。

幕間のおたのしみ抽選会では、31名の方に賞品が当たりました。多くの方のご協力で実施することができ、ありがとうございました。



最優秀賞 川口 幸夫 「今日はいいい天気」



優秀賞 野中 芳弘 「朝霧に包まれた南地区」



優秀賞 荒垣 啓介 「ぼくらのまち これからもよろしく」

フォトコンテスト  
入賞作品



最優秀賞 倉田 柑菜 小学6年生 「泳げ、鯉のぼり！！」



優秀賞 曾根原 唯 中学3年生  
「乗鞍の空へジャンプ」

一般の部



佳作 垣内 喜久雄 「防火訓練 331」



佳作 中川 将広 「まだかな？」



佳作 古宿 歩果 中学2年生  
「ひまわり」

小中学生の部



## 『みなみまち協5周年を迎え』



みなみまちづくり協議会  
石上 寛

みなみまちづくり協議会が五周年を迎えました（コロナ禍で延期になったので正確には六周年）。おめでとうございます。

私は札幌出身で、二〇一〇年に家内の故郷の高山に引っ越して来ました。二〇一四年に南小学校の育友会長をしていた関係から当時の準備室の会長に誘われ、高齢者の多いまち協の中では当時唯一の三十代だったこともあり、俗に言われる、「よそ者」で「若者」で「ばか者」として今に至るまで末席に座らせていただいております。

当初、社協と町内会を母体に各種団体から人材を集めて新しい組織を作るとのことでしたが、社協のことも各種団体のことも知りませんでしたし、このタイミングで新しい組織を作る必要性も理解できず、戸惑うことも多かったことを記憶しています。当時の会長をはじめとした役員

や事務局の熱意があったからこそ設立出来たと思います。

人口減少の時代になり、役を引き受けづらい環境にも関わらず、市からの業務移行により担う仕事も増え、大きな組織になり、各町内会からも人材を輩出してもらっています。一見、時代に逆行しているように見えますが、市町村合併により行政組織が小さくなる反面（もし肥大化していたら行政は要反省）、住民個々の価値観や求めるものの多様性が進んでいることを考えると、小学校校区という単位で、そして住民主体で問題解決を図ることの方が、個々のニーズにスピーディーに答えられるのかもしれない。まだ理想からは遠いかもしれませんが、組織作りとしては良いスタートを切れました。次のステップとしては、今までの社協活動の見直しを進め、町内会との連携を深め、より多くの住民を巻き込む、むしろ巻き込まれたくなるような活動を進めて行くべきだと考えています。

長いようであつという間の悪戦苦闘の五年間でしたが、まだ取組の序章に過ぎません。「みんなできずこう住みよいまち」の実現に向けて、より一層の努力を重ねて行きたいと思います。

## 「社教」から「まち協」へ



宮岡 宏

平成二十七年（二〇一五）二月「社会教育運営委員会」（以下「社教」と略す）は「まちづくり協議会」（以下「まち協」と称す）という名前に変わって綱領も組織も新たに定め、スタートした。

「まち協」が発足した当時、会長始め役員の方々も一体何をどう目指す会なのかを議論してこられた。一方で「社教」時代の「生涯学習」、「地区敬老会」と「みなみふれあい文化祭」も大事にし、継承してきた。

「まち協」の「まちづくり」とは何だろうか。「まちづくり」と称する団体は市内で他にもさまざまあつて、その言葉は社会教育、福祉、町並み景観、空き家の活用などなどとても広い意味を持っていてとらえどころがない。役員の方々はそのことを日々考えておられたし今も議論は続いていると思う。ある日の役員会では真剣になるあまり顔を真っ赤にし

て意見を述べた役員のかたもおられた。

振り返って私は、かなりふがない事務局長であった。私自身の能力の限界で申し訳なく思っている。

将来、「まちづくり」に関わってくるのは子供も含めた若い人たちである。彼らが将来自分の住むまちに関心を持つためには「まち協」を身近に感じてもらうことも大事だと思う。「まち協」事務局は南小学校内にあつて扉の向こうでは児童の足音や声がよく聞こえる。「まち協」を身近に感じてもらえるにはとても良い場所にある。児童にとつて「まち協」が何をしているところはわからなくても自分とは関係のない世界だとは考えてほしくない。たぶんこの思いは「まち協」にかかわる人の思いだろう。在任中は児童から「みやじい」とあだ名され楽しい時をもてたのはまち協のおかげだ。町なかで成長した児童からあいさつされ、見違えてびつくりすることもある。まちづくりは、この子たちこそ考えてほしいし、私たちも長い時間軸で考え、進んでいく道のりかもしれない。

# みなみまち協 行事・活動 アルバム



## フラワーアド フラワー講座

9月11日(土)

小学生・中学生・高校生3人も含め計23名の参加。今年は額仕立ての作品となりました。

## 防災講演会 10月15日(金)

NPO法人「すえひろ」代表理事の末永賢治氏を招き、東日本大震災の体験談を聞く。各町内会の自主防災代表の方を中心に、町内会長さんや防災士31名が参加。

津波が押し寄せる様子など生々しい体験談を伺い身につまされる思いでした。



## 寄せ植え講座 10月16日(土)

「秋を彩る寄せ植え」をテーマに20名の方が参加されました。ウィンターコスモス、ミニバラ、パープルトウガラシなどを一つの鉢に配置して、それぞれの作品が出来上がりました。

## 普通救命講習 11月3日(水)

町内の公民館などにAEDが設置されています。いざという時に使えるようになるため、普通救命講習会を開催しました。呼びかけて意識の有無を確認し、心臓マッサージを開始します。近くの人に、救急車を要請し、AEDの持参を依頼します。一人で心臓マッサージを長時間続けることは困難なので、他の方と交代で行います。そんな手順などを学びました。



文芸南俳句 葉月会

みんなみ

老の口命延ぶとや栗の飯  
 継承の七条袈裟やお講晴  
 盛り皿はいつもの織部柿を剥く  
 椅子に掛け居間での体操秋深む  
 金木犀母の里へとバスに乗る  
 かたりべの飛驒の訛や秋時雨  
 一輪を土産と手折る秋日和

安藤 桂  
 上田真穂子  
 栗田美由紀  
 小林 高子  
 瀬川 章子  
 益田美貴子  
 米澤 智子

## 敬老会中止&記念品について

9月に開催予定でした「令和3年度 南地区敬老会」は新型コロナウイルス感染症拡大防止と参加者の健康と安全を最優先とするために、中止といたしました。

敬老会該当者には記念品を贈呈しておりますが、町内会へ加入していない敬老会該当者(昭和23年4月1日以前に生まれた方)で記念品を希望される方は、みなみまちづくり協議会事務局(0577-34-0114)へご連絡ください。

みなみまち協  
今後の行事予定

12月11日(土)	干支飾り作り教室
12月18日(土)	親子正月飾り教室
1月22日(土)	新春ワイン講座
1月末日	町内会活動補助報告提出締切
2月1日(火)	ミニ18号発行
2月6日(日)	みなみボウリング大会
2月末日	令和4年度情報提供提出締切
3月15日(火)	みなみまち協だより23号発行
3月	子ども会リーダー研修会

編集後記

九月末で緊急事態宣言が解除され、十月からみなみまち協の行事も再開しました。五周年記念コンサートの準備とみなみまち協だより二十二号の編集が重なり、バタバタの状態での作業となつてしまいました。それでも、行事が出来る事や参加して下さった方々の笑顔が見られたことはとても励みとなりました。このままコロナ禍が収束していくことを願います。

地
下
道
工
事
迂回路のご案内

国道41号線「総合庁舎口交差点」の横断地下道改修工事が行われていて、使用できません。この交差点には横断歩道はなく、付近は歩行者横断禁止となっております。

南の「上岡本交差点」は南小学校児童が多く横断しますので、ドライバーの方は十分に注意してください。

10月1日より  
12月31日まで